

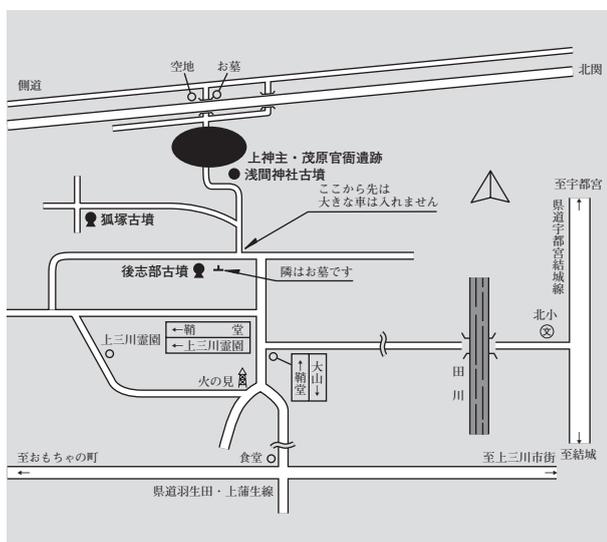
文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

古代の役所と古墳の宝庫（上神主）

町の北西部に位置する上神主には、古墳時代から古代にかけての多くの遺跡が残されています。田川の西側に位置するこの地域は、上三川町の中でも特に台地が発達しており水害に強いことから、まだ治水技術が発達していなかった当時の人々にとっては、絶好の生活の場でした。

まずは、国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡を訪れてみましょう。宇都宮市茂原町に接し北関東自動車道の南側に広がるこの遺跡は、奈良時代を中心とした役所の遺跡で、その内容から当時の河内郡の役所跡と考えられています。発掘調査を行ったあとは、遺構を保護するために埋め戻したことから、現地は草地と山林が広がるのみですが、1300年前のこの地は、多くの建物が並び、河内郡を治めるためにふさわしい威厳を誇っていたことでしょう。なお、遺跡の南東隅には、切り通し状に道路跡が残っており、奈良の都と東北地方を結んだ『東山道』の跡と考えられており、多くの人々がここを踏みしめて歩いたことでしょう。

東山道のすぐ南には、神社がたつ小高い山があります。これは浅間神社古墳と呼ばれる丸い形をした古墳（円墳）です。この古墳は5世紀に造られ、直径は約58mもあり、県内最古の大型円墳であることがわか



っています。この周辺はうっそうとした山林ですが、浅間神社古墳のほかにも、いくつかの古墳があります。狐塚古墳は6世紀に造られた全長41mの前方後円墳で、発掘調査では人面付円筒埴輪が出土しています。また、その南にある後志部古墳も狐塚古墳同様、6世紀に造られた前方後円墳で全長は46mもあります。

このように、多くの史跡がある上神主は、古墳時代から古代にかけて、大変栄えていたことでしょう。これらの史跡こそが当時の繁栄を今に伝えている、貴重な証言者なのです。

たね短歌

若緑縫いて落ち来る白滝の

裳裾広げて谷川に入る

青葉風若き僧侶の袖に吹き

慶事の寺に光りかがよう

武藤 ひさ

さま変りしつつ流るる鬼怒川の

中州に憩うセキレイ数羽

そこにだけ麦秋の香り漂よはせ

三反ばかり夏陽に熟れる

高田 幸子

高く低く空飛ぶ技を競ひつつ

燕夏陽を白さにかはす

古民家の鎮む湿りに藍染の

色を醸して衣桁に垂るる

稲葉 敬子

石垣に片寄る花びらすべらせて

尾の無きとかげきらりと消えぬ

斎藤アツ子

雨を得て若葉溢るる生命に

老い身いつしか動き増し来る

物を置く価値観の距離

一世と二世の思考生活の差あり

菊地 美代